

令和5年度(第16回)「国土交通大臣賞(循環のみち下水道賞)」

広報・教育部門

応募事例名

バーチャル下水道施設見学

～パソコンやスマホでリアルな臨場感を体験しよう!～

応募団体名) (公財)埼玉県下水道公社

応募事例の概要

制作の目的

- ① 最新のICTを活用して、多くの人々が実際に足を運ばなくても、パソコンやスマホを用いて手軽に施設見学ができるようにする。
- ② 下水処理施設の特長を的確に伝えるとともに、臨場感を感じられ、わかりやすく、使いやすく、小学生から大人まで利用できるものとする。

見学の内容

オープニング(OP)

OPはダイナミックなドローン空撮

水処理コース

説明動画も視聴できてわかりやすい

汚泥処理コース

施設の上から景色を見ることも可能

メニュー画面

自由に見学地を選べる

説明文は、日本語、英語、タイ語を選択できます

使用する言語を選んでください
Choose Your Language
เลือกภาษาของคุณทีอ่ล่น

360度画像がすごい!

クマムシくん達が楽しく解説

PRポイント

流域下水道で全国3位の規模を誇る下水処理場を、上空から、地上から、隅々まで見学できます。実際の施設見学では見ることのできない設備等を、臨場感のある360度の空間で体感でき、特に昨年度の国土交通大臣賞(循環のみち下水道賞)を受賞した汚泥処理施設の消化タンクは必見です。4つのコースから選択でき、埼玉の下水道マスコット、可愛い「クマムシくん」とクマニャンちゃん」がバーチャル解説員としてわかりやすく楽しく解説します。また、日本語だけでなく英語、タイ語にも対応しています。

令和5年3月24日に公開してから2か月間で、約3,000回の閲覧がありました。今後も閲覧数を増やすため、SNS等を中心に広くPRしていきます。

取組みに関するエピソード

「バーチャル下水道施設見学」の開設は、新型コロナウイルス感染症の流行により、施設見学等のリアルイベントを中心とする、従来の普及啓発活動を中止・縮小せざるを得なくなるなどの影響が出ていたことから、社会情勢に合わせた普及啓発活動の実施が必要だと感じたことが発端となりました。いざ制作がスタートすると、どこまでの内容を取り入れるのか、下水処理施設の特長を的確に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいかと色々考え、苦勞することもありましたが、イメージどおりに完成させることができました。

今後、さらにDXが推進されていきますので、常にアンテナを高く張り巡らせ、新しい広報活動のあり方を模索していきたいと思っています。



(公財)埼玉県下水道公社
経営企画課長
内海 誠



(公財)埼玉県下水道公社
経営企画課 主事
栗田 晃吉